

主題名 偏見や差別で苦しむ人がいなくなる社会を目指して

教材名 命尊し 一本名を名乗る意味―

人権学習の視点 個別的な視点「患者等の人権問題」

主題・教材について 社会にある様々な偏見や差別は、実は正しい知識がないことや相手の気持ちを理解しようとしない態度から生じることが多い。この教材を通して、ハンセン病にかかった人の思いを知り、あらゆる人権を尊重する態度を養いたい。



ねらい ハンセン病患者・回復者に対する偏見や差別をなくしていこうとする態度を身に付ける。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	ハンセン病にかかった人の状況を知ろう。				
	○ハンセン病が差別をうけた病気であることを理解させる。	一斉	○ハンセン病について、その概略を知る。 ○ハンセン病患者・回復者へ差別が続いた理由を知る。	○必要であれば、ハンセン病について事前に学習しておく。 ○ハンセン病の内容について理解を深めることなく、差別をうけた病気であったことに気付かせる。 ○「らい」という言葉は差別的に用いられることがあるので、使用しないこと。	指導資料
展開	ハンセン病にかかった人の気持ちを知ろう。				
	○ハンセン病患者・回復者に対する状況や患者の心情を理解させる。	個別 一斉	○なぜ作者は「藤井善」と名乗るようになったかを考え、発表する。	○昔はハンセン病に対する知識が乏しかったが、周りから受けた状況を感じ取らせる。	資料集 「命尊し」 ワークシート 項目①
	「人間回復」「人間の心の回復」について考えよう。				
展開	○病気が治った後の作者の思いや考えを理解させる。	個別 一斉	○「人間を回復する」、また「人間の心を回復する」とはどのようなことを意味しているのか考え、発表する。 <患者にとって> 人権を守られた生き方ができるようになること。 <患者でない人たちにとって> 偏見をもって、人を見ないようになること。	○「人間回復の橋」「患者自身の人間回復」「患者に対する偏見を持った人たちの人間回復」の点を視野に入れて考えさせる。	ワークシート 項目②
	「本名を名乗る意味」について考えよう。				
まとめ	○偏見や差別意識の解消を図る。		○「藤井善」から本名「伊奈教勝」を名乗る思いを考え、発表する。	○名前に対する作者の思いを踏まえ、「人間回復」に対する活動の決意を感じ取らせる。	ワークシート 項目③
			○教師の話を書く。 ・解決に向けての取組 ・ハンセン病の正しい認識	○正しい認識のため、以後にDVDの視聴等を行うことも考えられる。 「ハンセン病を正しく理解するために」 「未来への虹―ぼくのおじさんは、ハンセン病―」 「ハンセン病今を生きる」など	

<留意点> 「らい」という言葉については、歴史的経緯から差別につながるおそれがあるので、指導上用いないこと。

評価 ハンセン病患者・回復者に対する偏見や差別をなくしていこうとする態度を身に付けることができたか。

